

山下雄平新聞

<発行元>
山下雄平後援会
〒840-0801
佐賀県佐賀市駅前
中央三丁目6-11
TEL:0952-37-8290
FAX:0952-37-8291

政府代表で1・17追悼

阪神大震災 貝原前知事の墓参も

二〇一八年の通常国会が一月二十二日から六月二十日までの日程で開会しました。内閣府の政務官になり初めての通常国会です。政府の責任者として、子育てや消費者被害対策、洋上風力などの法案を提出します。どの法案も国民生活に直結する大切な課題で、速やかに成立できるように全力で臨みます。

国会審議に加え、災害などの危機管理も重要な任務です。一月下旬から二月にかけて大雪や火山の噴火の対応にも当たりました。人命の救助を最優先すると共



政府代表で追悼の言葉を述べた(1月17日、神戸市)

に、災害からの教訓をどう生かしていくかが問われています。一月十七日には阪神淡路大震災の追悼式に政府代表として出席しました。二十三年前、明石海峡を震源としてマグニチュード七・三の巨大地震が発生。兵庫県を中心に六五〇〇人近い方が亡くなられました。

当時、私は佐賀市の中学生でした。遠く離れた佐賀でも揺れを感じました。二十三年後の兵庫県は強い雨が降っていました。震災が起きた午前五時四十六分、神戸市内の公園では「一・一七」を表した竹灯籠が消えないように、何百人もの方が必死で傘を差しておられました。

私の後ろには、私より若い女性が涙を流して黙祷されていました。犠牲になられた方、被災された方の思いを我々は心に刻んでいかなければなりません。震災当時の知事は武雄市出身の貝原俊民氏。現地では私が佐賀県出身と知ると「貝原さんは我々の恩人だ」と声をかけ

てくださる人もいました。追悼式に出席するに当たり、貝原氏の著書を読み返すと共に、お墓にお参りしてきました。貝原さんは著書の中で、大都市に人と物が過度に集まっていることに警鐘を鳴らされています。郷土の先輩の声を形にしていかなければいけません。

イタリアG7大臣会合に出席

女性政策で世界と協調

昨年十一月、イタリアのシチリア島(タオルミーナ)で開催された先進七カ国(G7)の男女共同参画担当大臣会合に野田聖子女性活躍担当大臣の名代で出席しました。

各国からは「子育て施設の整備は経済にプラスの投資だとの認識に立たなければならぬ」といった意見が出ました。私は「雇用が足りないから女性に働いてほしいというのではなく、就職・結婚・出産などで女性がどういう選択をしても社会全体でサポートするとの視点で考えていかなければいけない」と述べ、日本の子育て支援策などを説明しました。

私以外の出席者は全員女性。しかも主催国イタリアのボスキ官房長官は三十六歳、フランスのシエパ男女平等大臣は三十四歳、カナダのモンセフ女性の地位大臣は三十三歳でした。帰国後、野田大臣

からは「唯一人の男性という空間は居づらかったでしょうか? 女性は普段さういう思いをしているのよ。そのことを忘れずに社会を変えていくのがあなたの仕事よ」と大切な宿題をいただきました。



会合後の記者会見では「男性の働き方や家庭での役割が変わらなければ、女性の生き方は多様にならない。各国とも政府、企業が慣行を変

えていくように努力していかなければならぬ」と指摘しました。

から「唯一人の男性」という空間は居づらかったでしょうか? 女性は普段さういう思いをしているのよ。そのことを忘れずに社会を変えていくのがあなたの仕事よ」と大切な宿題をいただきました。

から「唯一人の男性」という空間は居づらかったでしょうか? 女性は普段さういう思いをしているのよ。そのことを忘れずに社会を変えていくのがあなたの仕事よ」と大切な宿題をいただきました。